

参戦報告書

Debrief report

主催：社団法人自動車技術会

開催期間：2008年9月10日～9月13日

場所：ECOPA 小笠山総合運動公園

Overall Results

38位 / 62校

Thank you for All Sponsors !

ご協力頂いた企業様

※敬称略・五十音順

<総合的なご支援を頂いた企業様>

株式会社イワモト
スズキ株式会社

本田技研工業株式会社
マイスタークラブ

<資金提供をして頂いた企業様>

株式会社恭和

帝国ピストンリング株式会社

<部品の無償提供・加工・走行場所を提供して頂いた企業様>

NTN 株式会社

T's Total Sports

株式会社井上ボーリング

株式会社エフ・シー・シー

株式会社ジャムコ

株式会社ソケットセンター

株式会社 D.I.D

株式会社東京オールアンドデー

株式会社東日製作所

株式会社パイオラックス

株式会社ハイレックスコーポレーション

株式会社不二製作所

株式会社富士精密

株式会社ミツバ

株式会社森清化工

株式会社リトル・ガレージ

株式会社レーシングサービスワタナベ

協和工業株式会社

小原歯車工業株式会社

サイバネットシステム株式会社

住鋳潤滑剤株式会社

ジュニアモーターパーク クイック羽生

ソリッドワークス ジャパン株式会社

帝都ゴム株式会社

寺田製作所

東急自動車学校

東急自動車整備専門学校

東京都立科学技術高校

日産ディーゼル工業株式会社

日新鋼管株式会社

日軽アクト株式会社

日本軽金属株式会社

日本発条株式会社

日本ユピカ株式会社

古河電池株式会社

有限会社インタースピードジャパン

有限会社鈴村製作所

<私達の活動に協力して頂いている企業様>

AVO/MoTeC Japan

BP カストロール株式会社

株式会社アクティブ

株式会社エイチ・ピー・アイ

株式会社キノクニエンタープライズ

株式会社協和興材

株式会社桑原インターナショナル

株式会社小山ガレージ

株式会社ブレンボ・ジャパン

株式会社ミノルインターナショナル

日産自動車株式会社

ホライゾン

三井生命保険株式会社

有限会社スピードハウスアルファ

有限会社ラフアンドロード

モーターサイクルズ川崎店

ご支援・ご協力頂き誠に有り難う御座いました

Team members

ファカルティアドバイザー 内燃機関工学研究室 准教授 三原 雄司

プロジェクトリーダー 機械工学科 3年 佐々木 光

4年

安藤 靖浩

高橋 弘治

増田 好晃

3年

近藤 亘

橋本 紘樹

2年

岡島 学

加藤 哲也

小林 聖太

1年

原 克幸

望月 謙吾

森山 翔太

屋田 憲吾

小関 一洋

影山 元太

上地 聡

北村 智章

酒井 康裕

佐藤 宏樹

高嶋 龍一

梶木 翔

浜田 昭平

平野 達也

水野 茂洋

横田 圭弘

9月9日

出発〜技術車検

今年度より実施される事になった事前車検を受ける為、前日の出発となった。

車両の車検対策や大会への準備に予想以上に時間が掛かってしまい、出発が予定より遅れてしまった。

会場に到着したのが車検開始時間の一時間前。急ピッチで作業を進め、なんとか開始時間に間に合わせる事が出来た。

昨年度の大きな反省となった技術車検の不通過。今年はそれを活かして出来る限りの対策を施した甲斐もあり、無事に一度で通過する事が出来た。

9月10日

静的審査・車検

前日に技術車検を通過していた為、この日は各静的審査と騒音審査やブレーキテスト等の車検がこなすべき項目となった。

静的審査の時間が一日の中で分散している為、その合間を縫って車検を行うといったスケジュールであった。

2008年度の総括

「エンジンF1化」の為に動いてきた一年間。他の事を犠牲にしてきた部分もあった。この様な結果となることも予想していなかった訳ではなかったが、それでもやはり悔しかった。

車両だけ見れば、エンジンのF1化という長年計画倒れ状態にあった事を実現し、単気筒エンジンでの一つの区切りをつけることが出来た。しかし、現状ではその性能を引き出せているとは言えず、車体側も様々な面で追いついていないという状態である。

まだ、2008年の計画は終わっていない。残された問題をクリアし、単気筒の本当の性能を引き出すまでは終われない。

今回の悔しさをバネとし、反省を糧として、Mi-Tech Racingは更なる高みを目指して進み続けます。



▲技術車検



▼デザイン審査



▲オートクロス出走前

総合順位

38位／62校

動的審査

アクセラレーション

30位

スキッドパッド

未出走

オートクロス

29位

エンデュランス

リタイヤ

静的審査

デザイン

21位

コスト

25位

プレゼンテーション

50位

だが、全ての項目を無事にこなすことができ、翌日の動的競技への切符を手にする事が出来た。静的審査では、健闘惜しくもコスト審査・プレゼンテーション審査に関しては昨年度よりも順位を落とす結果となってしまったが、デザイン審査では順位向上を果たすことが出来た。

9月11日

動的審査

この日の動的競技は受付順で競技が進行していく為、出走するタイミングが非常に重要なポイントとなった。

私達のチームは出来るだけ早く出走する為に朝一番で競技エリアへ車両を向かわせ、アクセラレーションの競技に全出走チーム中で一番に出走させることが出来た。しかし、この競技中にエンジン回転数が上がらなくなるといったトラブルが発生。すぐにピットに戻して対応をしたが、原因究明に時間が掛かり、残りのアクセラレーション、スキッドパッド競技への出走は出来なかった。

オートクロスの競技では、フェューエルインジェクション化した車両で



▼エンデュランス



▲車両全体像



▼集合写真

の練習時間が殆ど取れなかったため、ドライバーが車両に不慣れな状況では有ったが精一杯の走りを見せてくれた。

9月12日

エンデュランス

エンデュランスの競技は、前日のオートクロスの順位がそのまま出走順となる。私達のチームは29位となり、昼過ぎの出走となった。

ピットでの各部の確認は万全。チームメンバーの思いを乗せて車両は走り出した。

しかし走行中にサスペンションのブルロッドが破損。残念ながら完走することは出来ず、リタイヤとなってしまった。

9月13日

表彰式

私達武蔵工業大学は、毎年何かしらの賞を受賞していた。しかし、今年はその名前を呼ばれる事は無かった。

やるべき事はやってきたつもりだったが、やはり皆悔しさを隠せなかった。

プロジェクトリーダー引継ぎのお知らせ

第六回大会終了をもって、私佐々木はリーダーを引退させていただきます。一年間ご支援・ご協力頂いたスポンサー様、OB様、先生方、私達を支えてくださった全ての方々に御礼をさせていただきます。本当に有り難う御座いました。

今後は、機械システム工学科2年の原克幸がリーダーとしてチームを率いていきます。私も含めまだまだ未熟ではありますが、精一杯頑張つて参りますので引き続きのお力添えを頂ければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

